

『万葉集』を味わう

締切 8/3 必着

講師 一関工業高等専門学校総合科学人文社会領域教授 津田 大樹

この講座では『万葉集』の挽歌を取り上げます。挽歌は三大部立のひとつで、人物の死に際して詠まれた歌のことです。古代に生きた人々の生涯と死、それを哀惜する人々の歌。古代の歴史や風土、文化を踏まえながら万葉挽歌を読み解いていきます。



津田 大樹(つだ たいき)

1967年生まれ。東北大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。現在、一関工業高等専門学校人文社会領域教授。『万葉集』を主とした古代文学を専門としている。歌の表現の成り立ちを古代の歴史や文化を踏まえながら明らかにすることを目指している。

日程 9/3・9/17・9/24・10/1・10/15

各日曜日・全5回

時間 10:30～12:00

定員 80人

受講料 1回500円

テキスト 講義はこちらで用意した資料に沿って進める予定です。お持ちの『万葉集』がある方はご持参下さい。毎回、次の講座で扱う予定の歌をお知らせします。

『更級日記』を読む

締切 8/16 必着

講師 東北大学大学院文学研究科准教授 横溝 博

菅原孝標女の『更級日記』を読みます。『源氏物語』に憧れて京へと旅立つ上京の記に始まり、念願の宮仕え、結婚、夫との死別など、日記にはおよそ40年にわたる孝標女の人生が凝縮されています。最終回では『更級日記』研究の第一人者である和田律子氏(流通経済大学教授)を迎えて、藤原頼通の文化世界という観点から、座談会形式で『更級日記』の魅力に迫ります。



横溝 博(よこみぞ ひろし)

1971年生まれ。専門は中古・中世の王朝物語及び日記文学。平安時代に作られた様々な文化的コンテンツが、後の時代に受容され再生産されていく動態に着目し、王朝文化の内包する豊饒な感性の世界の可能性を、現在にも共有し押しひろげようと、日々古典文学作品の研究に努めている。近年では『新古今和歌集』の時代に作られた「中世王朝物語」と呼ばれる作品群に深い関心を寄せ、論考を発表している。

日程 9/16・9/23・9/30・10/7・10/28

各土曜日・全5回

時間 10:30～12:00

定員 80人

受講料 1回500円

テキスト 講義はこちらで用意したプリントに沿って進めますが、お手持ちの『更級日記』がある方はご持参下さい。

バス利用の場合 ・宮城交通バス 仙台駅西口バスプール2～4、6番乗り場・北部団地方面行(急行・北山トンネル・桜ヶ丘加茂団地経由を除く)

・市営バス 仙台駅西口バスプール6番乗り場・八乙女駅行

※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車

地下鉄利用の場合 台原駅下車徒歩20分(台原森林公園内あかまつの道経由)

駐車場 40台(無料) 台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用下さい



Sendai Literature Museum
仙台文学館
〒981-0902 仙台市青葉区北根2-7-1
TEL.022-271-3020 FAX.022-271-3044
http://www.sendai-lit.jp/

※再生紙を使用しています。このチラシはリサイクルできます。

仙台文学館 ゼミナール 2017

深い言葉の世界を追究し、
知的刺激と発見をめざす「仙台文学館ゼミナール」。
日々の暮らしのなかで文学や言葉に
関心を持つ方々にむけて、
成熟した読書と表現を究めるカリキュラムをお届けします。

- 近代文学を読み解くコース
 - ・太宰治『斜陽』を読む
 - ・正岡子規の「写生文」を読みなおす
- 現代文学を探究するコース
 - ・遠藤周作の世界～文学と宗教
 - ・井上ひさし作品を読む
- 日本の古典に親しむコース
 - ・『万葉集』を味わう
 - ・『更級日記』を読む
- 表現をみがくコース
 - ・朗読ワークショップ～物語を読む
 - ・佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座
 - ・俳句実作講座
 - ・川柳実作講座

※会場はすべて仙台文学館講習室

申込みについて

- ◆往復はがきに、住所、氏名、電話・ファックス番号(講座日変更などの連絡に必要)、希望する講座名を記入の上、仙台文学館にお送りください。はがき1枚につき、1人、1講座の申込みとします。複数講座に参加ご希望の方は、それぞれにお申込みください。
- ◆締切は必着で、各講座それぞれ違いますので、ご注意ください。
- ◆カリキュラムは、全回参加して1講座が終了するように組んでありますので、基本的に、各講座とも毎回ご参加ください。
- ◆申込みが定員を超える場合は抽選となります。なお余裕のある場合は、締切後も受け付けますので、お問合せ下さい。
- ◆返信は、締切後にお送りします。(先着順ではありません。)

申込先

仙台文学館
〒981-0902
仙台市青葉区北根2-7-1
TEL.022-271-3020
※いただいた個人情報はゼミナールに関するご連絡以外には使用しません。

近代文学を読み解くコース

太宰治『斜陽』を読む 締切 8/10 必着

講師 東北工業大学准教授 高橋 秀太郎
「人間は恋と革命のために生れて来たのだ」 戦後すぐのベストセラーとなった『斜陽』は太宰の代表作の一つです。本講座では、『斜陽』で描き出された「恋と革命」や女性像について、太田静子の日記(『斜陽日記』)との比較や聖書との関わりなどいくつかの視点をたてて検討し、作品の魅力に迫ります。

日程 9/10・10/29・11/12・11/26・12/10 各日曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 『斜陽 他一篇』(岩波文庫)

高橋 秀太郎(たかはし しゅうたろう)
1974年生まれ。東北大学大学院文学研究科博士課程修了。現在、東北工業大学共通教育センター准教授。専門は太宰治を中心とする日本近代文学。特に太宰治と戦争というテーマについて研究している。最近では、太宰が掲載した『月刊東北』(河北新報社、昭和19年創刊)と『東北文学』(同、昭和21年創刊)の全体像についての調査もすすめている。

正岡子規の「写生文」を読みなおす 締切 8/17 必着

講師 東京大学大学院教授 小森 陽一
第一高等学校の同級生であった夏目漱石と正岡子規。漱石は子規を自らの俳句の宗匠として、句作を手紙とともに子規に送り、子規は漱石の俳句を添削批評し、自らが発行する『ホトトギス』に掲載しました。作者と読者の立場を相互に往還する、二人のこうした文学的友情が、近代日本語の表現にどのように影響したかを、現在残された書簡や作品を通して読み解きます。

日程 9/17・10/1・11/12・11/26・12/17 各日曜日・全5回
時間 13:30～15:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 『子規と漱石 友情が育んだ写実の近代』(集英社新書) ※その他必要に応じて資料を配布します。

小森 陽一(こもり よういち)
1953年生まれ。北海道大学大学院博士課程修了。成城大学助教授を経て、東京大学大学院教授。専攻は、日本近代文学。「九条の会」事務局長。主な著作に『漱石論—21世紀を生き抜くために』(岩波書店)、『村上春樹論—「海辺のカフカ」を精読する』(平凡社新書)、『最新宮沢賢治講義』(朝日選書)、『漱石を読みなおす』(ちくま新書)など。共著・編著に『岩波講座 文学』(岩波書店)、『米原万里を語る』(かもがわ出版)、『座談会昭和文学史』[全6巻](集英社)ほか多数。

現代文学を探究するコース

遠藤周作の世界～文学と宗教 締切 8/16 必着

講師 文芸評論家 富岡 幸一郎
遠藤周作はカトリックの信仰を生きた文学者です。代表作の『沈黙』は本年映画化され話題を呼びました。その文学とキリスト教信仰の接点と、21世紀の現代世界における遠藤文学の今日性を考えてみます。

日程 9/16・9/30・10/28・11/11 各土曜日・全4回 ※4回目は佐伯一麦さんをお迎えし、遠藤文学の世界についての対談を予定しています。
時間 13:30～15:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 『イエスの生涯』『沈黙』(いずれも新潮文庫)

富岡 幸一郎(とみおか こういちろう)
1957年生まれ。中央大学文学部仏文科卒業。1979年、在学中に「群像」新人文学賞評論優秀作を受賞し、文芸評論を書き始める。関東学院女子短期大学助教授を経て関東学院大学文学部教授。2012年より鎌倉文学館館長を務める。著書に『戦後文学のアルケオロジー』、『内村鑑三』、『スピリチュアルの冒険』、『最後の思想 三島由紀夫と吉本隆明』、『川端康成 魔界の文学』ほか多数。

井上ひさし作品を読む 締切 8/24 必着

講師 朝日新聞記者 山口 宏子
長年にわたり、朝日新聞で劇評や文化欄を担当し、生前の井上ひさしと交流のあった講師が、思い出も交えながら、井上戯曲の魅力を読み解きます。

日程 9/24・10/15・11/19・12/10・1/28 各日曜日・全5回
時間 13:30～15:30
定員 50人
受講料 1回500円
テキスト 『藪原検校』『国語元年』『闇に咲く花』『黙阿弥オペラ』『紙屋町さくらホテル』

山口 宏子(やまぐち ひろこ)
1960年生まれ。83年朝日新聞社に入社。東京本社芸芸部(現・文化くらし報道部)で演劇を中心に取材、批評などを執筆してきた。西部本社(福岡)、大阪本社にも勤務。編集委員、論説委員などを経て、現在は報道局の記者。武蔵野美術大学非常勤講師。2003～04年、早稲田大学演劇博物館客員研究員。09～10年、NHK-BS2(現・BSプレミアム)の「ミッドナイトステージ館 演劇はいま」の司会を担当。共著に『蜷川幸雄の仕事』(新潮社)。

表現をみがくコース

朗読ワークショップ～物語を読む 締切 4/11 必着

講師 フリーアナウンサー・朗読家 渡辺 祥子
声で伝える喜びを味わえる「朗読」の世界。その世界に魅了される人が年々増えています。文学作品の朗読やナレーションで活躍中の講師のもと、日本語が持つ、特有の音の美しさを味わいながら、実践で練習します。

日程 4/30・5/14・5/28・6/18・7/9 各日曜日・全5回
時間 午前の部10:30～12:30 午後の部14:00～16:00
定員 午前・午後とも各30人
受講料 1回1,000円

渡辺 祥子(わたなべ しょうこ)
フリーアナウンサー・朗読家。ラジオパーソナリティや司会を務める傍ら、98年より朗読や語りや音楽を融合させた舞台公演をスタートさせる。様々な文学作品のレパトリーを持つ他、詩や童話など幅広いジャンルの朗読、さらに宮城ゆかりの人物や作品にスポットをあてたオリジナル作品の制作にも取り組む。2016年5月、詩画家・星野富弘氏の作品を朗読したCD『Brilliant Life～いのちの輝き～』(グローリア・アーツ)をリリース。

佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座 締切 4/6 必着

講師 作家 佐伯 一麦
佐伯一麦が、書くことの貴重さを伝えるエッセイ実作鑑賞講座。毎回決められた課題に添って作品を提出します。講師は提出された作品に触れつつ、その中から何作品かを講座内で取上げ講評をします。また毎回テーマに合わせた文学作品の鑑賞も行います。実作に挑戦したい方はもちろん、鑑賞だけ参加したい方もお待ちしております。

日程 5/7・6/4・7/2・9/10・10/9 各日曜日・全5回(10月のみ祝日)
時間 13:30～15:30
定員 30人
受講料 1,000円

佐伯 一麦(さえき かずみ)
1959年生まれ。高校卒業後、上京して週刊誌記者や電気工の勤めの傍ら作品を書く。数々の文学賞を受賞し、07年には『ノルゲ』(講談社)で野間文芸賞、14年『連れぬ家』(新潮社)で毎日芸術賞、『渡良瀬』(岩波書店)で伊藤整文学賞を受賞。自然の移り変わりや、人間の日々の営みを「定点観測」した作品からは、あらゆる事象への深い洞察力と温かいまなざしを感じられる。

俳句実作講座 締切 4/14 必着

講師 「小熊座」主宰 高野 ムツオ
優れた俳句作品の鑑賞を通して、その伝統と基礎を学びながら、実際に作品を作っていきます。(俳句の定型をとおして、今までにない言葉と言葉の関係を構築し、新たな自分と向き合うこと)が、自らの句作の信念である講師の下、鑑賞と実作の基本を学びます。

日程 5/13・6/10・7/8・9/9・10/14 各土曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 30人
受講料 1回1,000円

高野 ムツオ(たかの むつお)
1947年生まれ。俳人。市内の中学校教諭を務めながら句作を続け、79年に俳誌「小熊座」を主宰していた佐藤鬼房の門を叩く。その後同誌の編集に携わり、現在は主宰。句集に『雲雀の血』(ふらんす堂)『蟲の王』(角川書店)、『萬の翅』(角川学芸出版、読売文学賞・小野市詩歌文学賞・蛇笏賞受賞)など。鬼房の詩魂を継承しつつ、定型が生み出す感動のダイナミズムを模索する俳人が、実作を手ほどきする。

川柳実作講座 締切 8/9 必着

講師 「川柳宮城野」主宰 雫石 隆子
癒しの17音字と言われる川柳は、老若男女に親しまれている伝統的文芸です。今回の実作講座では、課題川柳の作り方、時事川柳、印象吟などの実作のヒントについて学びます。社会と自身の内面を見つめ、思いの丈を17音字にまとめましょう。実作講座で、心身のサビ落としをしませんか。

日程 9/9・10/14・11/18・12/9 各土曜日・全4回
時間 13:30～15:00
定員 30人
受講料 1回1,000円

雫石 隆子(しずくいし りゅうこ)
川柳作家。85年より「川柳宮城野」に入会。文芸川柳を中心に、社会・世相・時事を扱った作品のほか、東北の方言による創作にも力を入れる。句集に『樹下のまつり』(川柳宮城野社)。「川柳は人生の詩(うた)」であり、「誰もが気軽に自分の本音や思いを表現できる爽快感・心地良さ」がその魅力と語る。川柳を広く時代に継承したいという思いから、本講座の開催に至った。